

第三回 次世代の物質科学・ナノサイエンスを探る

「地の底 海の果には何があるかわからない、科学と藝術の間には硝子の壁がある」
環境を制御して天然と全く同じ人工雪を作った、雪博士こと中谷宇吉郎の言葉である。
物質科学・ナノサイエンスが発展した今、天然と人工の境界は埋まりつつ、また、新たな壁として我々の前に現れてくる。

今回は、物質科学・ナノサイエンスの限界・境界・極限・融合に挑む新進気鋭の研究者にご講演いただき、新春の北海道で天然と人工のあいだの硝子の壁を探ってみたい。



日時 2014年1月10日（金）
場所 北海道大学百年記念会館
主催 知の協奏を目指すソフトおよびナノマテリアル研究会
共催 フロンティア化学教育研究センター
（文部科学省特別経費「分子構築イノベーション」）
参加費 一般 1000円 学生 無料 交流会費 5000円

13:00～13:05 開会の辞

13:10～13:50 「白いナノバイオテクノロジーが明らかにした深海生物資源の新たな有用性」
出口茂（海洋研究開発機構）

13:50～14:20 「結合を操って究める精密重合：合成高分子の新境地に向けて」
大内誠（京都大学）

14:20～14:40 「自己組織化による高分子微細構造形成とバイオミメティック分子技術」
藪浩（東北大学）

14:40～15:00 「アミノ酸・ペプチドを用いる金属集積制御と機能開拓」
高谷光（京都大学）

15:00～16:00 ポスターセッション

16:00～16:30 「水素結合性高分子の準安定状態とメモリー効果：ガラスとのアナロジー」
浦川理（大阪大学）

16:30～17:00 「天然ナノモーターと人工ナノローターの1分子ダイナミクス」
飯野亮太（東京大学）

17:00～17:10 閉会の辞

17:30～20:00 自由討論・研究交流会



北海道大学
HOKKAIDO UNIVERSITY

Frontier Chemistry Center
フロンティア化学教育研究センター

世話人

佐々木善浩（京都大学）
内藤昌信（物質・材料研究機構）
角五彰（北海道大学）